

令和3年度 放課後活動指導者研修 実施報告②

実施日：令和3年6月18日（金）

○演習「子どもの遊びの理解と支援～子どもの活動プログラムを体験しよう～」

今回は、身近な材料を活用した工作と、レクリエーションの演習を行いました。研修を通して、体験活動の効果や、指導する際のポイント、新型コロナウイルス感染症対策などを確認しました。

「紙コップを使った工作」

栃木県子ども総合科学館 展示課長 室岡 久男氏

紙コップを材料として、ブーメラン2種類と紙とんぼ作りを行いました。材料が日用品である点や、完成までに手間がそれほどかからない点など、誰でも手軽に楽しむことのできる要素がたくさんありました。多くの受講者にとって、子どもと行う活動メニューの選択肢を増やす機会となったようです。

また、活動を支援する際の配慮事項についても説明があり、受講者の今後の活動意欲を高める、充実した時間となりました。



★ 受講者の声 ★

- 紙コップ一つからたくさんのおもちゃが作れ、充実した時間でした。
- 低学年から高学年まで、少ない材料で行うことのできる工作で、活動を支援する立場としてはうれしかったです。
- 子どもたちが喜びそうな工作を、もっとたくさん調べてみようと思いました。

「レクリエーションゲームを体験しよう」

栃木県総合教育センター 生涯学習部職員

感染症対策を実施しながら、楽しく取り組めるレクリエーションゲームの体験を行いました。具体的には、じゃんけんを使って行うゲームと新聞紙で作った棒や輪を用いるゲームを、どちらも数種類ずつ行いました。

接触や道具の共用を避けながら、受講者同士でペア、グループを組んでいくつかの活動を行いました。一緒に活動することで親睦を深め、時間が進むごとに笑顔が増えていきました。受講者は、子どもの実態に応じたアレンジやゲームで得られる効果について考え、所属する施設等での活動実践に向け、構想を練っている様子でした。



★ 受講者の声 ★

- 様々な配慮や工夫をすれば遊びの幅が広がることを、体験を通して学ぶことができました。
- 身近な物で簡単にレクリエーションで使える道具が作れることや、じゃんけんだけでいくつも遊べることを学びました。
- コミュニケーションの大切さを実感しました。人と話すことは大切なことだと思いました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで

TEL:028-665-7206 e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp